

まちづくりコーディネーター通信

令和4年度島根県西部社会教育研修センター
「ファシリテーター養成講座」の様子

令和4年12月発行

年末のご挨拶

目次

年末のご挨拶	1
コーディネーター 全体の動き	1
「ふるさと弥栄」の 魅力発信 檜谷	2
「コーディネート」の 在り方について 小田原	3
ファシリテーター 養 成講座	4
港町防災イベント	4
お問い合わせ先	4

今年も残りわずかとなり、年の瀬が迫りました。

学校現場になぞると二学期を終え、まとめと次への階段への三学期を迎える時期で、育ちや伸びの感触を感じる時期でもあります。

さて、まちづくりコーディネーターも令和3年4月から数え、21か月目となりました。学校のごとくこの間を大まかに三つの期に分けると、「まちづくりコーディネーターって何をする人?」、「公民館とまちづくりセンターとどう違うの?」など、たくさんの「よくわからない」に戸惑い気味の初期、まちづくりセンターや地区まちづくり推進委員会との面談等を通じ始動の兆しを感じてきた中期、まちづくりコーディネーターも伴走させていただきながら、いくつかの事案が動きはじめた現在。と複雑ながら考えています。まだまだの部分もありますが、少しずつ地域の皆様のまちづくり活動のお役に立てているようにも感じています。

地域に住んでおられる皆様の地域に対する「愛着心」の結集こそが、「まちづくり」の土壌であろうと思います。皆様の想いが実を結び、魅力的で元気な地域になる過程にご一緒できることは、私達コーディネーターとしてもとても楽しみです。

コロナ禍で3度目の年の瀬を迎え、なお先を見通しづらい状況ですが、新年の干支ウサギが持つ意味の一つ「向上」に倣い、令和5年はまちづくりコーディネーターも「向上」しながら地域の皆様の伴走をさせていただきたいと思います。

コーディネーター 全体の動き

まちづくりコーディネーター同士や担当課との連携及び情報の共有のため、毎週月曜日の午前中にミーティングを行っています。

皆様から相談があったこと等、細かく共有し連携して支援をして参りますので、ぜひお気軽にまちづくりに関することについてご相談ください！



「ふるさと弥栄」の魅力発信



文) 檀谷卓夫

◆関わるきっかけ◆

「2年生が弥栄をPRする動画を作っています。生徒にアドバイスをしてもらえませんか？」

9月に、弥栄中学校から依頼がありました。先生によると、総合的な学習として、2年生がふるさと弥栄をPRするための動画を作ろうと1学期から取り組んでいるとのことでした。

生徒達は、1年生の時から林業学習や、火おこし体験をするなど、ふるさと弥栄の「ひと・もの・こと」をいかした学習に取り組んでいました。昨年、その取組に関わったこともあり、今回も喜んで協力させていただくこととしました。

◆弥栄中学校の修学旅行における取組◆

9月に行われた修学旅行先で、作製中のPR動画を近畿弥栄会の方に見ていただき、そこで中学生が助言をいただいたとのことでした。

後日、交流を仲介した弥栄支所の方に話を聞くと、当初は、「自分たちで役に立つだろうか」と心配しておられた近畿弥栄会の方も、交流後は、ふるさととの中学生と触れ合うことができ喜んでおられた様子だったとのことでした。中学生の取組が、浜田を離れて故郷を想う方々にも届きました。

また、弥栄中学校では、昨年、地元企業の協力を得て、生徒たちが弥栄の特産品などについて学習し、修学旅行先で販売・PR活動を行っています。

◆コーディネーターとしての関わり◆

地域の方と動画を拝見するために学校を訪問し、意見を述べさせていただきました。また、10月下旬には、弥栄中学校で行われた島根県へき地教育研究大会に参加し、授業の中で生徒とPR動画について意見交換を行いました。

弥栄中学校のこれらの取組は、浜田市が進めている「協働のまちづくり」の趣旨に沿うものであり、生徒は「まちづくり」において期待されている市民の役割を立派に果たしていました。

「まちづくり」は「人づくり」。生徒の学びが関係人口の増加など、地域の明るい未来につながるよう、コーディネーターとして共に歩んでいきたいと思えます。



近畿弥栄会の皆様との交流会の様子

浜田市弥栄町PR動画
(弥栄中学校2年生制作)



ようこそ弥栄へ！！

ぜひ、ご覧ください！

コーディネートの在り方について



文) 小田原 汀

まちづくりコーディネーターを拝命し、およそ1年と半年が経過しました。この間、まちづくりコーディネーターは多くの事業や団体設立の伴走役として、みなさまのまちづくりにご一緒させていただきました。

コーディネートをさせていただいた体験のうち、スムーズにいった関わり方や、まちづくりの発展がみられた事例のグッドポイントについて、私自身が感じた部分を共有させていただければと存じます。

『人とつながり、まちを元気にする』コミュニティナーシングの視点や社会教育の視点を取り入れております。

みなさまの日ごろの活動のコーディネートにおいて、何か参考になるところがあれば幸いです。

①はじまり

②たくらみ

③シェア

④スモール
ステップ

⑤ファースト
アクション

⑥ふり返し

	概要	ポイント
①はじまり	日ごろから関係づくりをし、熱意や課題感を感じている誰か(Aさん)の本音に出会う。	そのAさんの着想を引き出し前むきに後押しする姿勢。 共通の熱意や課題感を持っている方2～3名で次回の会合がもてるよう促す。
②たくらみ	熱意や課題感をもつ数名で、たくらむ機会をもつ。	楽しく自由な発想から、具体性を持たせたスモールステップまでファシリテーションする。 予算や3年程度の見通しも持てると尚よい。
③シェア	より人数の多い集まりの中で提案する。仲間を募る。	関わるみなさんそれぞれにとって、メリットがある活動だという点を具体的に伝えることを意識しながら提案ができるよう伴走する。 ホワイトボードを効果的に活用し視覚的に整理できるとよい。
④スモールステップ	実験・トライアルとして、まずできることを小さな規模でやってみる。	気軽にやってみることを、後押しする声かけや姿勢。 Aさんが楽しそうか、積極性を持てているかを観察し、伴走する。
⑤ファーストアクション	スモールステップの感触や振り返りをもとに、アクションしてみる。	準備段階で、終了時に目指す状態を関係者間で共有。 次回につなげられるように、成果指標のアンケートを取ることに並行して、参加者の着想を拾えるようなものになるとよい。
⑥ふり返し	ファーストアクションから、日を置かずにふり返りの機会をもつ。	終了時間を決め、できるだけ関係者全員で反省点だけでなくよかったこと、数値目標だけでなく楽しかったか・今度はどんなことをしたいかなど運営側の主観も大事に全員が話が出る雰囲気づくりを行う。

ファシリテーター養成講座 修了

島根県立西部社会教育研修センターが主催する、全3回シリーズの「ファシリテーター養成講座」に、コーディネーター全員で参加しました。「“対話の場づくり”を楽しむ」というテーマで、参加型学習の体験からはじまり、実際にファシリテートを行い、そうした場づくりにチャレンジしてみました。

最終日には、西部社会教育研修センター所長より、修了証を授与いただきました。この研修で得た学び、そしてファシリテートのスキルを、皆様に還元できるよう、頑張ります！



港町の防災イベント「防祭」が初開催されました！

令和4年11月19日(土)に、港町八つの町内の皆さんがつながり、原井小を会場に防災事業「防祭(ぼうさい)」が初開催されました。まちづくりコーディネーターもいろいろな角度からの調整で関わらせていただきました。当日は天候にも恵まれ、68名の方に参加いただきました。

まちづくりの機運醸成のためのこうした取組が少しでも広がり、まちづくりの原点である「人と人とのつながり」ができるよう、コーディネーターも支援をしていきたいと思えます。



まちづくりコーディネーターのSNSフォローよろしくお願いします

Facebook



Instagram



浜田市地域政策部
まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9204

0855-25-9007

(CN執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 manabi@city.hamada.lg.jp